

小牧市立第一幼稚園の あり方に関する報告書

令和 3 年 2 月

小牧市立第一幼稚園のあり方
に関する検討部会

〈目次〉

1. はじめに	P 1
2. 第一幼稚園の現状	P 2
(1) 第一幼稚園の概要	P 2 ～ 5
ア 沿革	
イ 教育方針	
ウ 特徴	
エ 公開保育の実績など	
オ 実践研究の成果など	
カ 保護者や他の幼稚園関係者の声	
(2) 第一幼稚園における課題	P 7, 8
ア 園児数の減少（ソフト面での課題）	
イ 園舎の老朽化（ハード面での課題）	
(3) 第一幼稚園の新たな取組	P 9
ア 預かり保育の実施	
イ 未就園児保護者に対する積極的な情報発信	
3. 第一幼稚園のあり方に関する検討	P 10, 11
4. 検討の視点からの分析	P 12, 13
5. 第一幼稚園の役割と今後のあり方	P 14～16
(1) 第一幼稚園の役割	P 14
(2) 第一幼稚園の今後のあり方	P 15, 16
ア 質の高い幼児教育の実践と情報発信	
イ 多様な保護者ニーズへの対応	
ウ 幼保小の連携、小学校への円滑な接続と関係機関との連携	
エ 家庭や地域と連携した園運営の推進	
オ 多様な子どもの受入れ体制の充実	
6. おわりに	P 17

《参考資料》 P 18

◆小牧市立第一幼稚園のあり方に関する検討部会 名簿

◆検討の経過

1. はじめに

小牧市立第一幼稚園（以下「第一幼稚園」という。）は、昭和41年の開園以降、市内の私立幼稚園とともに本市における幼児教育の発展に努めてきました。

平成27年4月からスタートした子ども・子育て新制度への移行を背景に、本市では待機児童解消へ向けた取り組みのひとつとして、平成28年度に第一幼稚園の認定こども園化について検討したものの、当時の保護者の反応や費用対効果などを含め、総合的に判断した結果、一旦保留にした経緯があります。

しかしながら、当時と現在とでは保育行政を取り巻く環境が変化しており、本市における待機児童の解消を目的とした様々な取組も当時とは大きく状況が変わってきています。

なかでも、小規模保育事業所は、平成28年度当時は10施設でしたが、平成31年4月現在で16施設に増加し、さらに令和元年5月1日には中部公民館2階に市内初となる公立の小規模保育事業所「小牧市立小規模保育園こすも」を開園し、令和2年4月現在で17施設となりました。

また、民間事業者が設置・運営する新たな私立保育園として、「じょうぶし保育園」が平成31年4月1日に開園し、加えて、私立幼稚園の認定こども園化の取り組みとして、平成29年4月1日から「旭ヶ丘第二幼稚園」が「旭ヶ丘第二こども園」に、平成31年4月1日から「外山幼稚園」が「とやまこども園」に、それぞれ移行し、低年齢児の受け皿が整備されました。

これら様々な取組の効果もあり、平成31年4月1日現在で、待機児童がゼロとなりましたが、令和元年10月からスタートした幼児教育・保育の無償化制度の影響や育児休業からの復帰等により、年度途中での保育ニーズは高く、継続して待機児童対策を推進していく必要があります。

一方で、近年では第一幼稚園の園児数の減少や園舎の老朽化等の課題が浮き彫りになり、第一幼稚園の今後のあり方の検討が不可欠となりました。

そのため、令和2年3月に策定した「第2期小牧市子ども・子育て支援事業計画」において、第一幼稚園のあり方について位置付けるとともに、こども子育て会議のなかに「小牧市立第一幼稚園のあり方に関する検討部会」を設置し、この度、第一幼稚園の今後のあり方について検討を行ったものです。

2. 第一幼稚園の現状

(1) 第一幼稚園の概要

ア. 沿革

時期	園の沿革
昭和41年10月	小牧市立第一幼稚園として開園（園児数38名）
昭和50年 3月	防音園舎に新築（定員216名、1学級36名）
昭和56年 4月	保育園と人事交流
平成 8年 8月	園舎全面塗装、修繕
平成 9年 4月	3歳児学級の開設（1学級20名）
平成10年 4月	「地域に開かれた幼稚園づくり推進事業」開始
平成11年 4月	定員変更（定員180名） 4, 5歳児（1学級35名）、3歳児（1学級20名） 3歳児2学級となる
平成14年10月	第1回公開保育実施（以降、現在まで継続）
平成15年 4月	障がい児優先枠を設ける（各学年定員の5%）
平成18年 4月	学校カウンセラー派遣実施
平成20年 4月	幼稚園敷地内にあさひ学園（親子通園施設）設立
平成22年 4月 8月	「地域に働きかける学校づくり推進事業」開始 園舎耐震改修
令和 2年 4月	預かり保育実施

イ. 教育方針

教育目標 心身ともにたくましく、よく遊び元気な子ども

◆めざす幼児像

- やさしい子ども・・・心豊かで思いやりのある素直な子ども
- 元気な子ども・・・健康的で意欲的に取り組む子ども
- 考える子ども・・・試したり工夫する子ども

◆めざす幼稚園の姿

- 子どもたちが安心して過ごせる幼稚園
- 子どもたちがじっくり遊びに取り組める幼稚園
- 仲間の中で伸び伸びと育ちあえる幼稚園
- 保護者や地域の人に信頼される幼稚園

◆めざす教師の姿

- 幼児に愛情と、教育に情熱を持つ教師
- 実行力に富み、粘り強さがある教師
- 広い教養と豊富な専門的知識・技能を持つ教師

ウ. 特徴

- ・親子のスキンシップを図り、情操豊かな子どもに育てるため、絵本の貸出しを行っている。(保育用冊子約 2,000 冊)
- ・「地域に開かれた幼稚園づくり」を目指し、夏祭りや敬老の集い、運動会、子育てについての講演会の折には、地域の方々にも声をかけ、園児との交流の場を広げている。
- ・昼食はお弁当で、親の愛情を感じながら、園生活の中で子ども達のほっとするひとときとなっている。
- ・保護者が先生となり、子どもたちと一緒に遊んだり、職員のお手伝いをしたり、楽しい時間を過ごしてもらえるような取組を行っている。

エ. 公開保育の実績など

- ・公開保育とは、幼児教育・保育の質の向上と幼保小の連携などを目的とし、幼稚園や保育園、小中学校教員のほか、あさひ学園や適応指導教室の職員などが、グループ討議を行い、お互いを高め合うとともに、公開保育を通じて得たものをそれぞれの教育現場で実践していこうとする取組である。
- ・第一幼稚園では、平成 14 年から始まり、初年度は幼稚園、保育園関係者約 30 名、小中学校関係者約 10 名の約 40 名の参加があり、以後、参加者も増えてきており、近年は 70 名以上の参加がある。
- ・平成 27 年度からは「公開保育研究会」に名称を変更し、教育の研究に、より一層力を入れており、他市に誇れる取組となっている。

《参 考》

時 期	助言指導者（アドバイザー） ※肩書は当時のものです。	主な研究テーマ
H14	名古屋芸術大学 幼児教育研究会副会長 小笠原 圭 氏	『幼児理解や教師の援助について』
H15～ H19	一宮女子短期大学 教授 横井 志保 氏	『滑らかな連携や移行を図るには』 『小児プロブレムの解消に向け、 共同でできること』 etc.
H20	東京大学大学院 教授 秋田 喜代美 氏	『様々な体験を重ね合わせながら 生きる力の根っこを育てる』
H21～	兵庫教育大学 准教授 鈴木 正敏 氏	『子どもの生活を見つめて、 生き生きと動く子どもを育てる』 『思考力の芽生えを培う』 『幼児の主体性を育む環境の構成 について』 etc.

オ. 実践研究の成果など

- ・愛知県からの研究委嘱園となり、様々な研究テーマに基づき、実践研究を行った。
- ・全国国公立幼稚園・こども園長会の東海北陸ブロックにおける各種研究大会における提案発表等を行った。
- ・『子とともにゆう&ゆう』（公益財団法人愛知県教育振興会）や『幼児教育じほう』（全国国公立幼稚園・こども園長会）への記事掲載、『現職教育資料 幼児教育（幼・小向け）』の作成を行った。

《参 考》

時 期	内 容
昭和46年	県からの研究委嘱園となる（2年間） テーマ『情緒豊かに育てるために』
昭和56年	東海北陸公立幼稚園教育研究会議会において意見発表 テーマ『主体性を育てる』
平成 8年	東海北陸公立幼稚園長会総会・研究大会において提案発表 テーマ『望ましい園運営』
平成22年	県からの研究委嘱園となる（1年間） テーマ『未来につなげよう小牧っ子』
平成27年	県内公立幼稚園の新規採用教員研修の一環として、第一幼稚園と米野小学校が保育参観、授業参観を実施 園長が助言指導を担う
平成29年	県からの研究委嘱園となる（2年間） テーマ『自ら考える子の育成』 子とともに『ゆう&ゆう』（家庭教育情報誌）8月号に記事掲載
平成30年	『幼児教育じほう』5月号に記事掲載 子とともに『ゆう&ゆう』（家庭教育情報誌）3月号に記事掲載
令和元年	現職教育資料 幼児教育（幼・小向け）の作成

カ. 保護者や他の幼稚園関係者の声

① 保護者の声 ～平成30年度幼稚園評価の自由記述より～

■保育内容について

- ・親は弁当や送迎など手間が多くかかりますが、その分いや倍以上も、子ども自身の心や能力が成長し、すくすく育っていついてくれていると感じます。
- ・他園に通われている方からは、毎日の弁当や送迎をよくやりますね…と言われますが、上の小学生の子も、この3年間の弁当のおかげか、いまだにたまの弁当への懐かしいリクエストがあり、母としてとっても嬉しいです。

「ひとりひとりに向き合う保育」や「人間形成の基礎づくり」を評価

■保育体制について

- ・急用があった時など、3時くらいまで預かってもらえたら助かります。保育時間を延ばして欲しいです。
- ・幼児教育・保育の無償化以降は、バスの送迎がないこと、給食がないこと、預かり保育がないことが園選びをする親さんにとってネックになってくるのではと考えます。
- ・朝や帰りに先生や友だち、友だちのお母さんと直接交流できる所は第一幼稚園の良さだと思っています。

給食提供や預かり保育についての要望

■こども園化について

- ・月謝の負担だけ増えて、既存のままの幼稚園だと時代のニーズとかけ離れて、園児が減っていついてしまうのかなと思いました。
- ・こども園化の話がまた出てくるかと思いますが、以前保護者と市役所の方で話し合ったことを踏まえて、進めていついて欲しいと思います。

保護者との話し合いを踏まえて検討してほしい

■PTAについて

- ・子ども第一で考える園であることを願います。
- ・幼稚園に通うのはお母さんではなく子どもです。お母さんの満足のためだけでなく、子ども達が「楽しい、毎日行きたい！」と思える園になるといいなと思います。

子ども第一で考える園であってほしい

■第一幼稚園に入園して…

- ・「今日も幼稚園ある？」と土日朝起きたら必ず聞いてくるほど、子どもは幼稚園が大好きです。
- ・第一幼稚園に通い、我が子の成長に驚いております。
- ・担任だけでなく全ての先生が、園内で会うと、子どもの保育中に起きたちょっとしたエピソードを話してくださり、愛情持って可愛がってくれていることが、とても伝わってきて、子どもを第一幼稚園に入園させて本当に良かったと思っています。

「子どもに優しく寄り添う保育」を評価

② 幼児教育・学校関係者の声 ～令和元年度公開保育研究会より～

【幼稚園・保育園職員】

- ・どの子ども自分の好きな遊びをじっくり楽しんでいて、教師は声を掛け過ぎず、とても勉強になった。
- ・一人一人の子どもが、〇〇したいと思える環境が整い、友だちや教師と一緒にできる保育ができているのが良かった。
- ・どの場所に行っても、子どもの遊ぶ環境が整っていると思った。

「穏やかで温かい雰囲気」や「充実した遊びの環境」を評価

【小・中学校職員】

- ・他児の良いところを伝えたり、仲間に入れない友だちに声をかけたりと、自分だけでなく、周りに気を配っていた。これまでに指導された先生方の努力を感じた。
- ・幼児期の子ども達に様々な遊びをさせることを通して、それ以降に生きる学びを最大限に保障されていることが素晴らしいと思った。
- ・すべての年齢において、思いっきり遊ぶこと、教師や友だちとの関わりが大切であることに改めて気付かされた。そして、それが小・中学校につながっていくことを感じた。

「生きる学びの保障」や「子どもと先生との絶妙な距離感」を評価

(2) 第一幼稚園における課題

ア. 園児数の減少（ソフト面での課題）

第一幼稚園の園児数は、ライフスタイルの変化に伴う共働き世帯の増加や平成27年度にスタートした子ども・子育て新制度に伴う保育料の変更、私立幼稚園とのサービス格差（預かり保育や送迎バス、給食提供）などの要因により、年々減少傾向にあります。特に令和元年度から急激に減少しており、今後も減少傾向が続くと予想されます。

＜過去6年間の園児数の推移＞

年齢	定員	H27	H28	H29	H30	R1	R2
3歳児	40人	39人	30人	39人	31人	17人	20人
4歳児	70人	43人	44人	35人	43人	28人	17人
5歳児	70人	44人	45人	43人	36人	40人	27人
	180人	126人	119人	117人	110人	85人	64人

※学校基本調査より（各年5月1日現在）

イ. 園舎の老朽化（ハード面での課題）

公共建築物のうち築30年以上の建物は、総延床面積の44.4%を占めています。用途別に、築30年を経過している施設の延床面積割合を比較すると、最も高いのが学校教育系施設、次いで市民文化系施設、子育て支援施設となっており、これらの施設が特に老朽化が進んでおり、第一幼稚園は保育園と同様の子育て支援施設に含まれています。

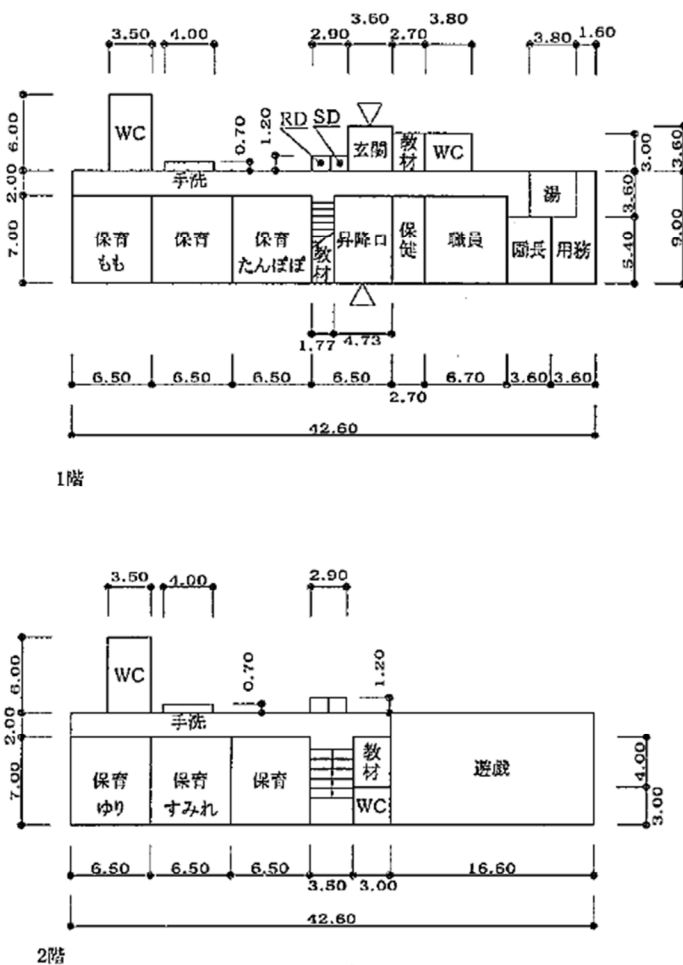
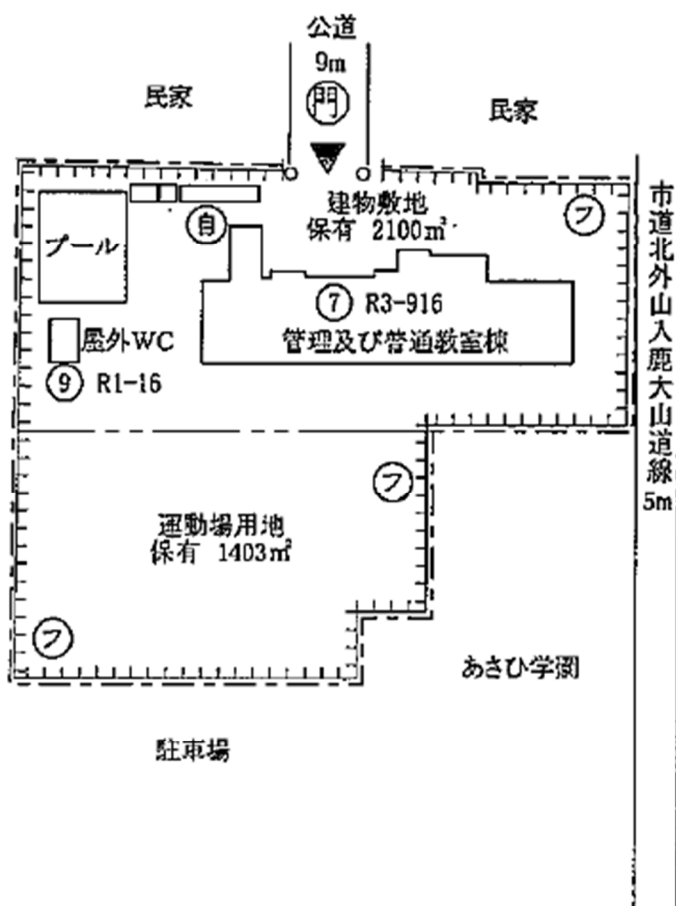
子育て支援施設は、築40年前後の老朽化が進んでいるものと、築10年未満の比較的新しい施設に分かれており、第一幼稚園は築40年以上が経過しています。

平成29年3月に策定された「小牧市公共ファシリティマネジメント基本方針」においては、「老朽化が進んでいる保育園・幼稚園の園舎の建替えにあたっては、将来の地域の人口動向（乳幼児数）や施設ニーズを予測するとともに、民間の保育所や認定こども園の設立の動向等を把握して、施設の規模や機能、設置場所、地区内の保育園の統廃合などを十分に検討する必要があります。」と位置付けられており、同時期に策定された「小牧市公共施設適正配置計画」においては、第一幼稚園は認定こども園化に向けた検討をしていくこととなっています。

〈第一幼稚園の施設情報〉

建築年度	構造	延床面積	建物敷地	運動場用地	履歴
昭和49年	RC造	932㎡	2,100㎡	1,403㎡	H8 大規模改修 H22 耐震改修

〈第一幼稚園の配置図等〉



(3) 第一幼稚園の新たな取組

ア. 預かり保育の実施

第一幼稚園において、以前から保護者ニーズの高かった預かり保育を令和2年4月から開始しました。

新型コロナウイルス感染症の影響による利用中止要請もあり、4月、5月は利用率が低かったものの、6月以降の預かり保育実施日は毎日利用されており、利用者数も順調に伸びています。

また、年度途中において、10 人の入園申込があり、預かり保育による一定の成果だと考えられます。

■令和2年度預かり保育上半期実績

小数点第1位四捨五入

	実施 日数 (A)	利用 日数 (B)	利用率 ※1 (C)	実利用 人数 (D)	うち 2号認定 (E)	延べ利用 人数 (F)	利用率 ※2 (G)	うち 2号認定 (H)	利用率 ※3 (I)
4月	21	10	50%	4	2	20	6%	18	43%
5月	18	5	28%	2	2	9	3%	9	25%
6月	22	22	100%	8	3	66	20%	44	67%
7月	20	20	100%	22	2	145	48%	38	95%
8月	16	16	100%	16	3	86	36%	35	73%
9月	19	19	100%	18	3	122	43%	52	91%

※1・・・利用率【日数】(C) 利用日数÷実施日数 $[B/A \times 100(\%)]$

※2・・・利用率【延べ人数】(G) 延べ人数÷(1日あたり定員15名×実施日数) $[F/(15 \times A) \times 100(\%)]$

※3・・・利用率【2号延べ人数】(I) 2号延べ人数÷(2号利用人数×実施日数) $[H/(A \times E) \times 100(\%)]$

イ. 未就園児保護者に対する積極的な情報発信

子育て世代包括支援センターでは、地域子育て支援拠点として、妊娠から子育て期にわたり、各種相談業務、子育て講座の開催など、様々な支援を行っています。

様々な相談の中で、就園に向けた相談が数多くあることを受け、子育て世代が知りたい情報をできるだけ分かりやすく、具体的に提供する場として、『子育て★知って楽しい！情報 Week』と題し、市内の全ての保育園、幼稚園、認定こども園、小規模保育事業所の協力のもと、パネル展示や相談コーナー、お楽しみコーナーなど工夫を凝らし、令和2年度に初めて開催しました。

第一幼稚園もこの新たな取組に参加し、園の良さや魅力を伝える良い機会となったことから、今後も子育て世代包括支援センターとより一層連携を強化するとともに、こういった場を最大限活用し、積極的な情報発信に努めます。

3. 第一幼稚園のあり方に関する検討

第一幼稚園は、昭和39年に策定された「第一次小牧市総合計画」において、「幼児教育は近年特に重要視され、国においては、幼稚園の義務教育化が検討されている状況であり、本市においても学校教育と直結した教育施策を図るため、幼稚園の新設を促進する。」とされており、当時から既に幼児教育や幼小連携の重要性が示されていたことから、昭和41年10月に市内初の公立幼稚園として開園したという経緯があります。

現在、文部科学省から示されている幼稚園教育要領において、幼児期の教育は、大きく家庭と幼稚園で行われ、両者は連携し、連動して一人一人の育ちを促すことが大切であるとされています。

家庭は、愛情としつけを通して幼児の成長の最も基礎となる心の基盤を形成する場であり、幼稚園は、これらを基盤にしながら家庭では体験できない社会・文化・自然などに触れ、教師に支えられながら、幼児期なりの世界の豊かさに出会う場であり、さらに、地域は様々な人々との交流の機会を通して豊かな経験が得られる場となります。

また、幼稚園は学校教育の一環として、幼児期にふさわしい教育を行うものであり、その教育は小学校以降の生活や学習の基盤となってくることから、幼稚園教育と小学校教育との円滑な接続を図ることが重要な役割の一つです。

本部会では、検討するにあたり、第一幼稚園の現状と課題のほか、次の(1)、(2)の前提をふまえ、(3)のとおり大きく4つの視点から、検討を進めました。

(1)『第2期小牧市子ども・子育て支援事業計画』における位置付け

『第2期小牧市子ども・子育て支援事業計画』では、「第4章 施策の展開 基本目標3 幼児教育・保育サービスを充実します 施策1 安全・安心な保育環境の整備」の項目において、保育園の適正配置・整備の基本的な考え方を示す中で、「今後の第一幼稚園のあり方について、既存の公立保育園の適正配置等に考慮しながら、認定こども園化を含めて、総合的に検討します。」と明記しています。

(2) これからの幼児教育・保育に求められる役割

幼稚園には、子育て支援の観点から、多様な役割を果たすことが期待されています。

地域のこどもの成長・発達を促進する場としての役割や、地域の子育てネットワークづくりの場としての役割など、地域における幼児期の教育の中心的な役割があることから、第一幼稚園の整備を含む「あり方の検討」については、施設や設備を安全、安心に活用できるよう配慮する必要があります。

（３）検討の視点

第一幼稚園の今後のあり方について、次の点に留意しつつ、関係者の意見を聞きながら、検討を進めていくこととします。

視点１

- 園舎の老朽化や入園児童の減少など、現状を踏まえた実現性のある検討を行うこと

視点２

- 今後の待機児童対策や幼児教育・保育の発展のために、どのような幼児教育・保育の場が必要であるかを明らかにすること

視点３

- 第一幼稚園が積み重ねてきた実践研究が引き継がれ、活かされること

視点４

- 他の保育園の適正配置・整備や園舎の老朽化への対応を考慮すること

4. 検討の視点からの分析

先に示した検討の視点について、第一幼稚園の職員やPTA役員との意見交換を通じ、保護者や近隣住民を含めた多くの方のご意見を参考に検討し、次のとおり検討結果を整理しました。

視点1

●園舎の老朽化や入園児童の減少など、現状を踏まえた実現性のある検討を行うこと

- ・園舎の老朽化及び認定こども園化については、「小牧市公共ファシリティマネジメント基本方針」、「小牧市公共施設適正配置計画」や『第2期小牧市子ども・子育て支援事業計画』における位置付けや財政状況等、中長期的な市の政策決定に関わる課題です。
- ・認定こども園は、法的な位置付け以外には、現場において、幼稚園と保育園の違いはあまり感じられません。預かり保育の充実などにより、認定こども園化への理解も深まると考えられ、園舎の老朽化への対応も含め、様々な事情等を考慮し、今後の施設形態の方向性については、市が責任をもって判断すべきと考えます。

視点2

●今後の待機児童対策や幼児教育・保育の発展のために、どのような幼児教育・保育の場が必要であるかを明らかにすること

- ・幼稚園は学校教育の一環として、幼児期にふさわしい教育を行うものであり、その教育は小学校以降の生活や学習の基盤となってくることから、幼稚園教育と小学校教育との円滑な接続を図ることが重要な役割の一つです。かつて、幼児教育は教育委員会の所掌事務とされ、幼年期教育連携推進会議が設置され、幼保小連携が議論されてきました。その後、こどもに関わる政策の一元化を目的に、幼児教育が市長部局に移管されましたが、これにより、幼稚園と教育委員会の連携が弱まった感が否めません。
- ・子どもの主体性を尊重し、個性を生かした教育について、特に近年、乳幼児期の重要性が指摘されています。幼稚園や保育園でどのような教育が行われているかを、小中学校の教員が現場を訪れて実感することは非常に大切なことであり、こうした機会を更に充実させるためにも、教育委員会の更なる理解が必要と考えます。

視点3

●第一幼稚園が積み重ねてきた実践研究が引き継がれ、活かされること

- ・ 幼保小の連携や小学校への円滑な接続に重要な役割を担う公開保育や愛知県からの研究委嘱園として実践してきた様々な研究成果については、従前のやり方にとらわれることなく、より効果的な取組となるよう見直しを図り、今後も継続して取り組んでいく必要があります。

視点4

●他の保育園の適正配置・整備や園舎の老朽化への対応を考慮すること

- ・ いかなる施設形態であっても、幼稚園教育要領に掲げる理念の実現は可能であると考えられることから、『第2期小牧市子ども・子育て支援事業計画』における将来的な量の見込みや保育園の適正配置の考え方とのバランスを考慮しながら、幼稚園のまま存続か、認定こども園化を進めるかなどの選択については、市の責任において適切かつ柔軟に決定すべきものであると考えます。

5. 第一幼稚園の役割と今後のあり方

検討の視点に基づき分析した検討結果を、さらに9つの項目（1 公立としての役割・意義、2 幼児教育の質の確保、3 保護者ニーズへの対応、4 幼保小の連携接続、5 地域連携・保護者支援、6 特別支援教育の充実、7 情報発信、8 園舎の老朽化、9 認定こども園化）に分類し、それぞれ「強み」「弱み」として整理したうえで、「第一幼稚園の役割」と「今後のあり方」について、次のとおりまとめました。

（１） 第一幼稚園の役割

本市では、市政60周年を迎えた平成27年度に、子育て支援をより充実し、『子どもを中心に世代を超えて、市民がつながり、支え合う、住みよいまち』を小牧市全体で目指していくことを宣言し、市内外に発信していくため、『こども夢・チャレンジ No.1 都市宣言』を制定しています。

本市における子育て関連施策は、この都市宣言の理念に基づき、子どもを中心に世代がつながる、あたたかいまちづくりを目指し、関係各部署がそれぞれの施策に取り組んでいるところであり、市政の中でも重要な位置付けとなっています。

幼児教育は、「生涯にわたる人格形成の基礎を培う重要なもの（教育基本法第11条関係）」として、近年、国内外における幼児教育の重要性についての認識が高まっています。

市内で唯一の公立である第一幼稚園は、市全体の幼児教育・保育の質の向上に向け、先駆的な研究や公開保育などに積極的に取り組むとともに、幼児教育・保育の拠点園として研究活動の成果や内容を幼児教育関係施設や機関に広げていくことが最も重要な役割だと考えます。

また、公立という強みを生かして、教育委員会との連携をより一層強化し、学校教育との円滑な接続を推進していく役割も期待されます。

更に、子育て世代包括支援センターや保健センター、あさひ学園などの公的機関とも連携し、妊娠から子育て期にわたり、切れ目のない支援にも積極的に取り組む必要があるほか、運営財源が税金であることから、その運営にあたっては、公平性や透明性が求められる一方、特別な支援を要する園児への対応など、セーフティネットの機能を果たす役割も求められています。

（２）第一幼稚園の今後のあり方

（１）に掲げた「第一幼稚園の役割」を果たすため、次のアからオまでの５項目について、重点的に取り組む必要があると考えます。

ア．質の高い幼児教育の実践と情報発信

- 第一幼稚園では、長年にわたって、研究事業や公開保育が実施され、私立幼稚園や公立・私立保育園、小中学校等から毎年多くの関係者が参加し、連携を図りながら幼児教育研修を行ってきた実績があります。幼児教育の重要性の認識が高まる中、第一幼稚園だけでなく市内全体の幼児教育・保育の質の向上や小学校教育との円滑な接続の推進に向け、研修内容や関係資料等の作成を通じた情報を発信し、関係者の理解促進を図る必要があります。
- 園内外の各種研修の充実を図り、幼児教育を担う職員の資質および専門性の向上を目指していく必要があります。

イ．多様な保護者ニーズへの対応

- ライフスタイルの変化に伴う共働き世帯の増加などの要因から、保護者のニーズも多様化しています。私立幼稚園とのサービス格差（給食・送迎バス等）は弱みとも思われますが、その一方で、弁当であること、保護者が送迎することに価値を見出す保護者もあり、強みにもなり得るため、取組の意義や長所などの正確な情報を発信していく必要があります。
- 第一幼稚園の教育方針などについて保護者に丁寧に説明し、方針に基づく具体的な取組のねらい、意義などについて、保護者の理解と納得を求めていくことは、幼児教育への選択肢を増やすことにもつながります。
- 時代に合わせた保護者のニーズを把握し、そのニーズに可能な限り柔軟に対応していく必要があります。

ウ．幼保小の連携、小学校への円滑な接続と関係機関との連携

- 第一幼稚園では、小中学校の児童生徒と積極的に交流を行っており、あさひ学園や保健センター、子育て世代包括支援センター等は、同じ公的機関であることから連携がとりやすい関係にあります。
- こうした強みを生かし、就園前の子どもを持つ保護者や地域の人々に園を開放し、幼児期の教育や子育てに関する相談に応じたり、様々な情報を提供したり、親子が交流する場や機会を積極的に提供していく必要があります。
- 公開保育は、幼保小の連携や小学校への円滑な接続という役割を担い、これまでの取組が高く評価されています。今後は従前のやり方にとらわれることなく、より効果的な取組となるよう見直しを図っていく必要があります。

- 幼年期教育連携推進会議については、年間プログラムに一貫性があり、更に他の私立幼稚園が主体的に関わりたいと思わせるような魅力ある内容となるよう見直しを図っていく必要があります。

エ．家庭や地域と連携した園運営の推進

- 第一幼稚園では、定期的に園庭開放やカウンセリングを実施していますが、特にカウンセリングについては、認知度が低く、特定の保護者の方のみの利用に留まっているのが現状であり、周知の方法について工夫していく必要があります。
- 子どもの生活は、家庭を基盤として地域社会を通じて次第に広がりを持つものであり、農作物の収穫体験や地域行事への参加など、子どもが地域の人々の温かさや愛着を感じながら、心の豊かさを育んでいく教育実践に取り組んでいく必要があります。
- 地域に開かれた園運営を行うことにより、家庭や地域コミュニティの教育力を幼児教育に活かすとともに、地域コミュニティの活性化にもつながるような仕組みを検討していく必要があります。

オ．多様な子どもの受入れ体制の充実

- 公立である強みを生かして、幼児期における特別支援教育の充実を図り、障がいのある子どもや特別な配慮を要する子ども一人一人の教育的ニーズや発達の課題を把握し、適切な体制のもと指導や支援を充実させていく必要があります。
- 隣接するあさひ学園と積極的に交流しており、障がい児の受入れ、保育に手厚いことが強みである一方、今以上に受入れを拡大するためには、人的支援を充実し、受入れ体制を強化することが必要不可欠です。

6. おわりに

今回の検討結果について、今後の第一幼稚園のあり方の指針となるよう、部会としての提言を報告書としてまとめましたので、幼児教育・保育課と第一幼稚園が共通認識を持ち、連携・協力しながら、今後の第一幼稚園を運営していただきたいと思います。

なお、今後の園運営にあたっては、幼稚園教育要領に基づく幼児教育の実現に向け、第一幼稚園の教育方針のもと、前例にとらわれることなく、社会状況の変化や保護者のニーズに柔軟に対応していけるよう既存の行事や取組の見直しのほか、新たな取組についても可能なことから積極的に取り入れていただきたいと思います。

第一幼稚園が幼児教育・保育施設としての役割を担いつつ、保護者や地域住民とのつながりの場となり、地域の核となる存在を目指していただくことを期待します。

また、幼児期の教育は、生涯にわたる人格形成の基礎を培う重要なものであり、それを実践する第一幼稚園の園長はじめ全ての職員は、自信と誇りを持って、日々の業務にあたっていただきたいと思います。

最後に、日常的な安全安心な幼児教育・保育環境の提供は必要不可欠であり、施設の維持管理や人的支援をはじめとする体制づくりについては、適切に行っていただくよう申し添え、本部会からの提言とします。

《参考資料》

◆小牧市立第一幼稚園のあり方に関する検討部会 名簿 (敬称略)

役職	選任区分	氏名	備考
部会長	保育士経験者 (元指導保育士)	長江 美津子	名古屋経済大学 特任教授
部会員	小牧市地区民生・児童委員 連絡協議会 代表	山岸 伊久美	主任児童委員
部会員	保育園長会 代表	長谷川 誓	村中保育園 園長
部会員	小牧市私立幼稚園連合協議会 代表	松岡 明範	とやまこども園 理事長
部会員	小牧市立第一幼稚園 代表	小川 由美子	第一幼稚園 園長
部会員	小牧市立学校地域 コーディネーター 代表	佐橋 明味	小牧小学校 地域コーディネーター

◆検討の経過

時 期	内 容
令和2年2月26日	小牧市立第一幼稚園のあり方に関する検討部会設置
7月6日	第1回検討部会 ・現況と課題報告、自由意見交換
8月6日	令和2年度第2回こども・子育て会議（中間報告）
8月	第一幼稚園職員による話し合い ・魅力や良さ、課題の洗い出し
9月4日	P T A役員との意見交換 ・魅力や良さ、課題の洗い出し
10月22日	令和2年度第3回こども・子育て会議（中間報告）
10月27日	第2回検討部会 ・今までの意見等をふまえ、今後の方向性について検討 ・報告書素案作成に向けた検討
令和3年1月20日	第3回検討部会 ・報告書素案の修正、まとめ
2月15日	令和2年度第4回こども・子育て会議（最終報告）